

V I A J E

febrero 14, 2019
土井先生の活動日記
Honduras Vol.31

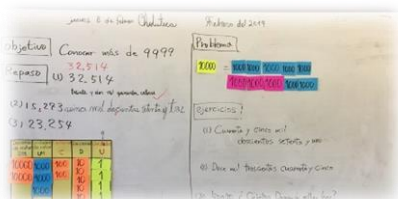
なぜ！ どうして！？を引き出す授業

こんにちは。ホンジュラス・ Cholteca の土井です。いよいよ Cholteca を去るまで残り1ヶ月となりました。何気ない毎日の大切さを痛感している今日この頃です。

さて、現在の土井先生の主な活動は①算数授業の支援、②歌の練習、③JICA への報告書類の作成、④研修会の計画、以上4つです。②は義務ではないので、また次の通信で話します。今日の通信では主に①についてお話しします。

従来の算数の授業では先生が解き方を教え、それを黒板で解説しながら解くという流れが一般的です。ただ残念ながらこのやり方だと応用が利かず、子ども達はただ知識をインストールされているだけです。極端なことを言えば、 $1\text{cm}=10\text{mm}$ という問題は解けても、 $1.2\text{cm}=12\text{mm}$ とは答えられないのです。同じ問題を扱うにしても、「 $1\text{cm}=10\text{mm}$ ならば、 1.2cm は何 mm でしょう？」と質問すれば、子ども達は考えます。日本が算数のプロセスで大切にしている点がここだと思っています。なぜなら日本の教科書は「～を考えよう」と問いかけている場面が多いからです。

とはいえ、ホンジュラスでこのやり方を変えることは生半可なことではありません。先生は従来のやり方が最善だと思っています。こちらの意図を伝え、実践し、結果を提示しない限りなかなか説得するのは難しいのです。そこで、土井先生が行った戦略とは、①観察した授業についてコメントする、②実際にやってみせる、③共通テストや単元テストの結果、つまりデータを提示する、というこの3つの戦略を採りました。その結果、①ノートに写しやすい黒板の使い方、②子ども達が考える時間の確保、③グループワークを活用する、という3つの方法を先生が習得することができました。もちろんこれは1つの方法に過ぎません。子ども達の学びを促すため、今日も先生は新たなやり方を模索しています。でもホンジュラスの教室は子ども達がビッシリいることが多いので、余裕をもってスペースを使える学校は結構幸運なんですよ・・・。



左：ホワイトボードに載せた最低限の板書。写す内容はなるべく少なく。

中：写す時間は写すことに専念。早く終わった子は課題について考えています。

右：グループワークを活用。10,000 を作るにはいくつの 1,000 が必要かを考えています。